

社会福祉法人ぶどうの木

2025年度事業計画書

(2025年4月1日～2026年3月31日)

I 事業方針

2024年度は、改正障害者差別解消法が施行され、「合理的配慮の提供」が行政機関のみならず、事業者も努力義務から法的義務化されました。また、読書バリアフリー法は施行から5年経ち、2025年度から基本計画第二期となります。

このような時期にあたり、各関係機関、当事者団体等と国が協力して、さまざまな事業が始まっています。そしてそれは図書館の現場に直結する業務でもあります。日常業務において、従来どおりのままではなく、当館も積極的にその新たな事業に関わり、取り入れていきます。

当館は日本カトリック会館の一角で業務を行っていますが、2025年度から2026年度にかけて、リニューアル工事が行われます。現在、1階に事務室・閲覧室兼多目的室、2階に対面朗読室やテープ書庫、3階に保管庫、7階には録音室が設置されている部屋があります。カトリック中央協議会のご配慮により、このリニューアルで、ロゴス点字図書館のスペースは利用しやすいようにすべて1階になる予定です。

2025年度はこのようにソフト面だけではなく、ハード面でも変化のある時期となります。

これらをふまえて、「考える図書館」の理念はしっかり継続しつつ、変化にもしっかり対応していきます。全国の利用者から頼りにされる図書館を目指し、また地域への普及啓発も進めていながら充実を図ります。

今年度は以下の重点施策を定め、事業計画を作成しました。

II 重点施策

1 サピエ図書館へのテキストデイジーコンテンツアップの充実

テキストデイジーとは、書籍のテキストデータを録音図書と同様にデイジー形式で編集したものです。音声デイジーより短い期間で製作できるので、視覚障害者情報総合ネットワークのサピエ図書館では、テキストデイジーのコンテンツが増加し、利用も多くなっています。

2022年度にテキストデイジー研修会を開催してから、ボランティアの協力のもと、テキストデイジー製作を進めてきました。技術も向上しており、サピエ図書館のテキストデイジーコンテンツ審査に挑戦し、無事合格することができましたので、サピエ図書館へのコンテンツアップロードが可能になりました。2025年度は、コンテンツアップにより、全国の利用者へ提供できることになります。

ボランティア活動として定着させ、コンテンツを製作し、滞りなく利用者へ提供できるよう努めます。また、テキストデイジーは原則としてCD等による貸出はなく、利用者は

コンテンツをダウンロードして利用します。利用状況は、サピエ図書館のストリーミング再生数やダウンロード数を参考に、選書にも配慮します。

2 雑誌の提供を開始

利用者へ情報提供する場合、図書館では図書を扱うことは当然ですが、雑誌からも様々な情報を収集できます。特に娯楽や趣味、自分の興味のある分野においてタイムリーな情報を得ることは有益です。全国視覚障害者情報提供施設協会は毎年点字・録音雑誌の製作調査をしていますが、昨年度はサピエ図書館加盟施設だけでも点字130タイトル、録音300タイトル以上の雑誌製作をしています。ロゴス点字図書館は、より利用者への情報提供の充実を考え、雑誌の提供を開始します。扱う雑誌は、当館の方針に合った宗教・哲学の分野に加え、医学、科学、文学等の分野も取り扱います。

具体的には、サピエ図書館にコンテンツがある雑誌で、毎号ダウンロードして点字印刷、音声データはCDにして送付します。昨年度から始まった、書誌に登録しておく、完成時に完成通知が届くという便利な機能を使い、利用者へ多くの情報をお届けします。

3 「カトリック視覚障害情報提供施設連絡会 点字・音訳図書

情報」テープ版のデジタル化

昨年度は、利用者への図書館だより「ロゴスのほん箱」、支援者へのニュースレター「通信あけのほし」テープ版のデジタル化を事業計画に掲げました。昨年度、テープの整理をしていくなかで、カトリック視覚障害情報提供施設連絡会が発行していた「点字・音訳図書情報」に一部テープ音源しかないことがわかりました。この連絡会は、カトリック関係の施設やボランティアグループ、点字出版等が加盟していた連絡会で、1996年に発足しました。研修や交流を通じて連携してきましたが、サピエ図書館がその役割を担うようになったため、2020年12月をもって24年間の活動を終了しています。図書情報は74号が最終号でした。この連絡会は当館を事務局としていたため、この図書情報も保管しています。これらも、ロゴスの発行物と同様、図書館にとって大切な財産です。テープ音源をボランティアの協力を得てデジタル化し、大切に保存していきます。

前身のカトリック点字図書館から積み上げられた連絡会の歴史を「文化」として大切に残していくことも重要な業務と考え、デジタル化し、音源を保管していきます。

4 日本カトリック会館リニューアルにともなう対応

今年度から、日本カトリック会館のリニューアル工事が開始されます。

当館が使用している部分も移動する計画ですが、今年度は録音室の移設があります。録音室は、ボランティアや職員が録音資料を製作するうえで欠かせないものです。新設するよりは、現在ある録音室を移設することで、環境負荷を軽減します。また経費もかけることとなりますが、移設することで、経費削減が実現します。録音室を移設する部屋は、対面朗読室も設置される予定です。無事録音室の移設が完了し、その部屋が問題なく使用できるよう、整えます。

その他、リニューアルにともなう移動、整理等をカトリック中央協議会と意思疎通を頻繁に図り、予定通りに工事が進むよう、協力します。

Ⅲ 事業計画

1 図書館サービス

利用者への貸出・レファレンスサービスは、職員個々のスキル向上によって、利用者へより満足いただけるサービスが実現します。ご希望の図書が見当たらない場合でも、同類の、あるいは関連した図書を紹介できるように、想像力を持ってサピエ図書館や国立国会図書館の「みなサーチ」等、検索ツールを駆使してサービスにあたるよう努力します。また、レファレンスのみならず、貸出返却作業も職員全員でローテーションを組み、行います。そうすることによって、利用者への情報提供の状況が共有されます。申し送りを徹底し、利用者へ滞ることなく、図書をお届けします。また、相互貸借がなければより良い利用者サービスは成り立ちません。そのためにも、他の図書館と連携し、お互い気持ちよく貸借できるようにします。「サピエ図書館」には、引き続き協力し、当館の図書の提供を速やかに行い、全国で利用いただけるようにします。

図書のリクエストについては、ロゴスの蔵書方針にあった図書は蔵書として製作します。そのほかのリクエストについては、個々の希望に沿う形で製作するプライベートサービス、あるいは他の施設と相談・連携し、希望する図書等を利用者へ提供できるようにします。また、学術文献の録音図書やテキスト化のリクエストがあった場合は、施設からの依頼にも対応している国立国会図書館を活用します。対面朗読サービスについては当事者団体等にも声をかけ、引き続き利用を促します。

2 図書製作

まず利用者からリクエストがあり、どの図書館でも製作されていない図書については、当館の蔵書の方針に合っているかどうか判断して製作をしていきます。また、蔵書としてふさわしい図書も製作し、利用者へ提供していきます。

新規図書の製作数は、点字図書25タイトル、録音図書（音声デジタイズ）25タイトル、テキストデジタイズ図書のコンテンツアップ5タイトルを目標とします。

利用者がテキストデータを希望した場合も、プライベートサービスとして対応していきます。

3 ボランティア養成

点訳ボランティアについては、今年度も、月に1回、点訳・校正勉強会の実施をします。ボランティアの疑問を解決し、ボランティア同士でモチベーションが上がるよう、有意義な勉強会にします。

音訳ボランティアについては、今年度も音訳勉強会と音訳校正勉強会をそれぞれ月1回（8月は除く）開催します。音訳勉強会においては、昨年度同様、外部講師による勉強会を5回とし、読みについて中心に勉強し、技術を向上させます。音訳校正勉強会においても、外部講師を1回お願いし、校正技術の向上を図ります。

点訳・音訳等のボランティアに対して行う点訳・音訳合同勉強会については、今年度も開催します。いつもは顔を合わせる事のない点訳、音訳、テキスト化作業、デジタイズ編集のボランティアが思いを共有できるような充実した勉強会にします。

ボランティアについては、地域で活動しているボランティアとのつながりを強化し、ま

たロゴスでの活動も促し、協力の声かけをするなどをして、増員を図ります。

テキストデージーのボランティアについては、デージー編集や音訳ボランティアの方々に活動していただいております。製作を充実させます。活動に必要なソフト等も整えていきます。

4 地域貢献（点字教室、ICTサポート）

地域貢献として、見えない・見えにくい方のための点字教室を実施します。引き続き直接来館していただける方を対象として、中途失明当事者である方を講師に、個々のレベルやニーズに合わせて月2回、1コマ60分の単位で個別に開講します。当事者団体や地域のボランティアグループに協力していただき、PRも積極的に行います。

ICTサポートについては、ロゴスの小規模な施設を生かして電話や来館において、相談や問い合わせ、具体的な内容について個々に対応します。また、全国組織および東京都等で開催される研修会や情報交換に積極的に参加し、技術の習得や人的ネットワークづくりに努めます。生活の向上のための、また情報収集のためのICT機器の紹介、支援をすることで、利用者がより便利に、また文化的に生活できるようにします。

5 行事

「ロゴスの文化教室」の開催を予定しております。オンラインやハイブリッドなど、全国の方々が参加できるよう、工夫します。

その他、「チャリティ映画会」に代わるチャリティイベントについては、開催場所の確保、イベントの内容、開催日時等を考えながら、今年度中に来年度の開催が出来るよう準備していきます。

6 定期刊行物・出版

例年通り、支援者向けニュースレター「通信あけのほし」を年4回、利用者向け新刊図書案内「ロゴスのほん箱」を隔月（偶数月）、「ロゴスのほん箱」でご紹介した蔵書を1年分まとめた「ロゴス点字図書館点字図書目録」「ロゴス点字図書館録音図書目録」を年1回発行します。また有料のものとしては、カトリック教会のミサで用いる「聖書と典礼」点字版・デージー版を毎月発行します。PRと広報に努めます。

「ロゴスのほん箱」「ロゴス点字図書館点字図書目録」「ロゴス点字図書館録音図書目録」は、全国の利用者に当館を知っていただくためにもサピエ図書館へ点字版・デージー版のコンテンツ登録をします。

点字出版については、引き続き内容等の見直しを行い、蔵書への移行を決め、点字のデータ化と、サピエ図書館へのコンテンツアップをしていきます。

7 地域への普及啓発の促進

地域のイベントやお祭り、会議等に積極的にかかわることで、お互いの事業や活動を理解することができ、ロゴスの認知度も上がります。今年度も、できる限り地域の催しに参加し、普及啓発に努めます。

8 法人業務・会議体

2025年度は理事会4回、評議員会1回の開催を予定しています。また、役員に加え評議員改選の年に当たるため、評議員選任解任委員会を招集し、候補を選定します。

また、法律に対応した規程の見直しも進めて参ります。